

Wesley Hall News

第78号 2003年12月10日 発行 青山学院宗教センター(ダイヤルイン03-3409-6537) 編集 ウェスレー・ホール・ニュース編集委員会



幼稚園2002年度 クリスマスページェント

目 次（特集：青山学院のパイプオルガン）

- | | | | |
|--------------------------------------|---|---|----|
| ○ 説教 「自分を無にして」 伊藤 勝啓 | 2 | ○ 青山学院資料センター所蔵のキリスト教
貴重文献・史料 その5 氷賀 健生 | 10 |
| ○ 特集 「神と音楽」 東方 敬信 | 4 | | |
| ○ 特集 本部礼拝堂のパイプオルガン 望月 広幸 | 6 | ○ キリスト教図書紹介 田中 かおる | 12 |
| ○ 特集 初等部のパイプオルガン 小澤 淳一 | 7 | ○ 私の教会 石田 彩子 | 13 |
| ○ 特集 短期大学のパイプオルガン 湯口 依子 | 8 | ○ 宗教センターだより 14 | |
| ○ 特集 磨きのかかったオルガン、マルクーセン 堀井 美和子 | 9 | | |

説 教

「かえって自分を無にして」 フィリピの信徒への手紙 第2章6-11節

伊 藤 勝 啓



主イエス・キリストのご降誕の意義を完全に理解することは誰にもできることではありません。しかし、めぐり来るクリスマスごとに思いを馳せるとき、理解の幅が広がることもあるでしょう。今回与えられた聖書の本文は、フィリピの信徒への手紙2章6-11節の部分です。題として「かえって自分を無にして」を選びました。そこにクリスマスの福音の意義が隠されていると思われるからです。

与えられた聖書本文は、いわゆる「キリスト讃歌」とも呼ばれ、初代教会の礼拝の中で用いられたと推測されている。聖書学的分析はさておき、この本文には見逃してはならないメッセージが含まれています。それは、クリスマスにおいて、神は主イエス・キリストにおいて虚無の世界に足を踏み入れられたということです。「無にして」と訳された言葉は、ギリシャ語のケノオーという動詞の過去のひとつを表すアオリストで「エケノーセン」という語が使われています。過去における一度限りの出来事を記述するのです。これは虚無的なもの、あるいは、悪魔的なものと人間の世界が接触していることを意味します。わたしたち人間は極限的状況に陥る前にこの虚無的、悪魔的姿の真相を見抜くことは困難でしょう。動物の世界には虚無的なもの、悪魔的なものが顔をのぞかせることは、人間の関与がない限り、皆無に近いでしょう。しかし、人間とともに、人間のうちにこの虚無的なもの、悪魔的なものが顔をのぞかせるのです。

創世記における人間の創造は3章にいたるまでこの虚無的、悪魔的現実を知りません。しかし、3章には「蛇の誘惑」という物語の形をとて人間の世界に今までとは異質の破壊意的力が入り込んだことを告知しています。このことは、古代の人々も人間にまつわるおぞましい影が存在していることを感知したのでしょう。その意味では実に深い人間理解を示しているのです。さらに、詩編の著者（あるいは編者）も誰からも見捨てられた虚無的世界を垣間見ていています。詩編130編でそれを「深い淵」と呼んでいます。深淵の底なき底へ落ちてゆく人間存在の悲鳴が聞こえてきます。

現代の人間観はあまりにも楽天的であり、他方悲觀的毎日の現実があり、両者の間に何か引き裂かれたものがあるのではないでしょうか。私たちは人間について、楽觀的になることも、悲觀的になることも避ける、というのが聖書のメッセージではないでしょうか。主イエス・キリストのご誕生について、ルカによる福音書は、「主が遣わすメシアに会うまで決して死なない、とのお告げを聖霊から受けていた」老シメオンが幼子の主イエスを腕に抱いて、「これは万民のために整えてくださった救いで、異邦人を照らす啓示の光」（ルカ2：31,32）と言って、主イエスのご両親を祝福しました。しかし、その直後に、母マリアに向かって「あなた自身も剣で心を刺し貫かれます。多くの人の心にある思いがあらわにされるためです」と言って、人間のうちに潜む暗黒を、悪魔的力を、そして虚無の影を示唆しています。主イエ

ス・キリストのご降誕には天と地の喜び、神の祝福、まばゆい光、人間の幸い、すなわち、神の恵みの一切が啓示されたと同時に、人間の暗闇、虚無的深淵、人間の極限的問題性が語られることになるのです。そして、そこにこそ主イエス・キリストが私たちのために担われた働きがあるのです。

フィリピの信徒への手紙の著者パウロは、いまだかつて誰一人としてなしえなかつた働きを自ら引き受けてくださった主イエスについて「僕の身分になり、人間と同じ者になられました。人間の姿で現れ、へりくだつて、死に至るまで、それも十字架の死に至るまで従順でした」と記しています。これ以外にわたしたち人間が神の光を受けて神の創造された人間らしく生きる道はないのです。この主イエス・キリストの類無き謙卑、ご自分を無きものとし、虚無にご自身を渡される以外に、わたしたち人間が背負っている虚無と暗闇と悪魔的力から解放され、自由にされることはあるのです。これが、非の打ち所の無いファリサイ派の律法学者としてのパウロの実体験でした。そしてすべてのクリスチヤンの、そして願わくは、人類すべての体験であろうことを願うものです。

さて、こうした体験をしたパウロは、虚無と暗闇、悪魔的力から解放されて、自分の存在をキリストのうちに発見するのです。それまで見失っていた自分をキリストのうちに発見するのです。口語訳聖書は「キリストのうちに自分を見出す」(3:9)と訳していますが、新共同訳聖書では「キリストの内にいる者と認められる」と訳されています。直訳すると「彼(キリスト)において〔自分が〕発見される」となります。この自己発見はパウロの人間としての回復をも意味します。これは何と喜ばしい発見でしょうか。何と祝福に満ちた平和

でしょうか。パウロは愛するフィリピの教会の人々もこの福音の仲間となり続けることを願い、そのためなら、「たとい、あなたがたの信仰の供え物をささげる祭壇に、わたしの血をそそぐことがあっても、わたしは喜ぼう」とさえ言いうのです。フィリピの人々のためなら自分が殉教することができても、それを喜びとができるほどに、主イエス・キリストがわたしたちのところに来られたことは、わたしたちに対する神の熱情に根ざすものであり、尊い福音であり、それをパウロがフィリピの人々と分かち合うのは喜ばしい事柄なのです。

わたしたちの時代は、「人間は、神がいなくとも何とかやっていける」と一般に考えていないでしょうか。また、いたとしても、心の問題だ、と思っているでしょう。これを共産主義の無神論や哲学的無神論と区別して実践的無神論と呼んでもよいでしょうか。この実践的無神論はつまるところ、他者に対して無関心となり、虚無的雰囲気をわたしたちの中につくり出していくのでしょうか。さまざまな形の相対主義や多元主義も重要な契機を持っていますが、安易に流れると、同じ方向をとることにならないでしょうか。わたしたちは、あのパウロと共に、ご自分を虚無に渡して、わたしたちをそこから解放された主イエス・キリストのご誕生の意義を考え、この2003年のクリスマスをいわおうではありませんか。そして、この主イエス・キリストのみ言葉に従ってゆく者となろうではありませんか。青山学院のそれぞれの部署で学ぶ者、教える者、事務の仕事に携わる者、またいろいろな形でこの学院で働く者にこのクリスマスの、まことの祝福と喜びとが実現しますように。父と子と聖靈の御名によりて、アーメン。

(女子短期大学 宗教主任)

特 集：青山学院のパイプオルガン

「神と音楽」 —青山学院大学オルガニスト養成講座開講講演要旨—

東 方 敬 信



大学オルガニスト養成講座

今年度、大学キリスト教活動の一環として、青山、相模原両キャンパスのパイプオルガンを用いてのオルガニスト養成講座が開催された。今年度は10月～12月全10回の講座を青山、相模原両キャンパスで開催した。講師は、大学オルガニスト6名にご担当いただいた。受講者は青山6名、相模原12名である。受講者は希望者多数につき、オーディションによって選抜された。本講座は、キリスト教音楽への理解・関心を高めると共に、オルガン演奏技法の向上を目指して教会における奏楽奉仕者を育成することを最大の目的とし、来年以後継続して開講を予定している。本稿は、9月26日（金）に実施した開講講演会での講演要旨である。

ユング派の心理学者である河合隼雄氏は、「日本人という病」という講演の中で「私は、今、日本は大変な時期を迎えつつあると思っている。これまで欧米の文化の上澄みを上手にすくつて取り入れてきたが、とうとう根っここのところでぶつかったという感じである」と言っています。先日、バッハ・コレギウム・ジャパンの素晴らしい演奏会にいく機会を与えられましたが、教会音楽であるカンタータを演奏会場で聞いている満員の人たちがなぜ教会につながらないのか不思議に思いました。欧米文化の根っこにあるキリスト教信仰とぶつかる時期が来るかもしれないとも予感しました。

さて、人間とは何か、音楽とは何か、また神と人間の問題を深く探究した文学作品に『アマデウス』があります。音楽にまとわりついている才能、名声、嫉妬心などをめぐって人間の問題を表

現しています。これは、1979年にロンドンで上演されたピーター・シェーファーの演劇で、これをもとに『アマデウス』という映画が作られ、世界中で話題になりました。

「アマデウス」は、いうまでもなくヴォルフガング・アマデウス・モーツアルトの一生とその音楽がテーマになっているのですが、もう一人の主人公がいます。それはサリエリという人物です。彼は、モーツアルトより先輩でウィーンの宫廷作曲家になっています。彼の作品は、大変平凡で、モーツアルトがウィーンに来ると、自分の陳腐な才能に気付かされ、失望してしまいます。この『アマデウス』という演劇は、モーツアルトの早死の理由が今でも分からぬのに目を付けて、大変な仮説を立てています。つまり、モーツアルトは、シェーファーによると、彼の先輩であるサリエリの妬みと失望によって、死に追いやられたというのです。この演劇は、誰でもぶつかる自分の才能を人との才能を比較して悩む問題を取り上げながら、神の問題に突っ込んでいった作品です。また、音楽にあるいは音楽家に本質的につきまとっている問題を掘り下げているのです。

映画で、モーツアルトは、あまたれで軽薄、女たらしで、大酒のみで、そのうえうぬぼれが強い存在です。また、それなのに人間的には気が弱いのです。シェーファーの見事な表現によれば、彼は性格的には「人間の肩」であるのに、音楽を作曲すると「天才」なのです。

映画では風貌まで軽薄な存在にしています。そして、初めて顔を出すところは、コンスタンツエという女性、後でモーツアルトの奥さんになる

のですが、彼女を追っかけ回している場面です。しかも、ひわいで下品な言葉を使って、彼女をからかっているのです。これに対してサリエリは、努力して努力して作曲家になった平凡な人間です。品行方正で、生真面目で、遊ぶことを殆どしない人間です。宮廷作曲家という地位についているのですが、平凡で退屈な曲しか出来ないです。でも、耳だけは良くて、良い曲を聞いたら胸がキュンとなり、締め付けられるような感動を覚えるのです。ひわいなモーツアルトが自分の室内楽を演奏すると、まさに天上の音楽のような素晴らしいしさに耳をうばわれてしまうのです。

このサリエリは、ある信仰のタイプを代表するのです。それは、神と取り引きをするタイプです。これをシェーファーは、商人の神への信仰を表現します。彼は、人生に名声を得るという目標を立て、その道具として神を信仰したのです。「わたしは眞面目に音楽家としての努力を致します。欲望に負けることなく努力いたします。そうしますから、ヨーロッパ全体を彗星のごとく明るく、驚かすような名声を下さい。」最初のうちは、出世街道を昇っていったのですが、モーツアルトと出会うと、問題にぶつかった。彼は、モーツアルトの素晴らしい曲と、その下品な人間性に出会って、あの神との約束が信じられなくなつた。なぜなら、彼は、一生懸命努力した自分と比べて、モーツアルトという天才は、なんの努力もしないで、名声を獲得してしまうからです。

アマデウスというのは、神の愛したもう者という意味です。サリエリは、モーツアルトの才能は、神の愛の与える賜物であり、この努力家の自分ではなくて、彼に与えたのは神のひいきの偏愛ではないか、と神に食ってかかるのです。神は、不公平だというのです。つまり彼の信仰は、人間の努力は絶対に報いられるという、計算で成り立っているのです。ここには、神と人間の間に自由な関係がないのです。神は自由な決断によって恵みを与えられるのに、人間が計算づくで恵みを

獲得するという取り引きにしてしまっているのです。たとえ5タラントと2タラントの違いはあっても、預けられたものを精一杯使う自由がないのです。取り引きの神と考えると、あの人に才能があるって、こんなに眞面目にやっている自分にはこれだけしかないと、嫉妬心や自己嫌悪が起こってしまうのです。

これに対してモーツアルトは、どうだったでしょうか。彼には、取り引きの神はなかつたけれど、未熟さがあった。それは自分の才能に振り回される人間としての未熟さです。彼は、自分の生活をうまくコントロールできないので、父親がコントロールしていた。彼は、父親の権威によって抑圧されていたのです。その後、サリエリがマスクをかぶってレクイエムを作ってくれと頼みにくる。それが自分の死神ではないかと誤解し恐怖するのですが、心の痛みとからだの疲れのなかでモーツアルトは、必死になってレクイエムを作るのです。その衰弱し切つた身体で最後に「パパ、パパ」と言い出しています。

その危機的な状況に、家出した妻コンスタンツエが帰ってきて、モーツアルトの頭を抱き上げます。そこで、テリエンという旧約学者が「権威ある神に母なる慈愛がある」ことを象徴しているというのですが、音楽が有効に使われて、その曲の最も慰めと恵みに満ちたラクリモーザが鳴り始めます。それは「慈悲深き主、イエスよ、永遠の安息を、彼らに与えたまえ」です。この時、モーツアルトは、コンスタンツエに悔い改めと感謝の言葉をかけて、終るのです。「わたしは一つのことだけ知った。君と結婚したことが人生の最大の喜びだった。生涯で世界一素晴らしい女性だった。聞こえるかい」。ここでアーメンが最後まで反響する、とト書きにあります。

この演劇の根っここのところには、まさにキリスト教信仰の深みがあります。教会音楽にふれるということはこの深みを体験することでもあります。

(学院・大学宗教主任)

特 集：青山学院のパイプオルガン

本部礼拝堂のパイプオルガン

望月 広幸

青山学院本部礼拝堂のオルガンは、1932年（昭和7年）にドイツのヴァルカー社によって製作されました。第2次世界大戦の戦禍を免れ今なお現役で活躍する日本で数少ないオルガンの1台です。私は1970年代の終わり頃から現在までこのオルガンの調律・修理に携わってきました。

設置当初は、オルガンのキーアクションは風圧式といって、鉛管で鍵盤の圧力をオルガン内に送り込むシステムでした。これだと発音が遅く、故障も多くなったので、1960年代に電気式に換えられました。しかし、オルガン内部の発音システムは相変わらず風圧式、ストップアクションも風圧式のままです。従って古い皮袋がよく破れるので今でも交換します。なにしろ笛の数だけ皮袋が付いています。11ストップ、579本の笛は全て昔のまま、口マン派の名残りのあった設置当時の低音重視で刺激音が少ない柔らかい音を響かせています。そして風圧が高いため、音程は非常に安定しています。調律は滅多に必要ないくらいです。外装、スウェルボックス、木管、風箱などはがつちりと出来ていて、びくともしていません。さすがに送風機だけは錆付いてきて、1990年代の終わりに交換しました。ガウチャーメモリアル礼拝堂の建築工事中は、1年間以上大学礼拝に毎日使われました。皮破れや、電気接点の修理を手まめにやってゆけば、まだまだ使えそうです。この貴重な歴史的オルガンを保存するため、これからも機会ある毎に鳴らしてその存在をアピールすることが大切だと思います。

このオルガンについて語る時に特筆すべきは、吉田実、岡井晃、馬渕久夫、高橋秀らが青年時代に、

このオルガンによって、故奥田耕天先生のレッスンを受けたという事実です。使用可能なパイプオルガンが日本にまだほんの数台しか無かった時代です。彼らは後年文字通り日本のオルガン界をリードする重要な役を果たしております。故吉田氏は国立音楽大学オルガン科教授として松居直美さんら優れた後進を育てられました。岡井氏は青山学院大学教授、大学オルガニストとして長年尽くされ、馬渕氏は前日本オルガニスト協会会长を務められました。奥田先生のレッスンはそれは厳しかったと皆さん述懐しておられます。また、東京音楽学校（現東京芸大）オルガン科の出身で、当時青山学院高等部でも教えていらした伊藤信夫氏もこのオルガンをずいぶん演奏されました。奥田門下生の発表会にいつも参加されたそうです。

2000年の秋に、ガウチャーメモリアル礼拝堂のオルガン製作の発注を受けたマティス社のヘルマン・マティス氏は設計のイメージを得るべく、本部礼拝堂を詳しく観察しています。そして、このオルガンを青山学院宗教音楽活動のシンボルと捉え、外装の木彫のモチーフをガウチャーメモリアルの飾りに取り入れました。また、音づくりに関しても、その低音の豊かさを受け継ぐために、いろいろと工夫しました。サブオクターヴカプラーを取り入れたのはその表れです。このように本部礼拝堂のオルガンは、多方面に影響を及ぼしつつ今日に至っています。

（望月オルガン代表）



特 集：青山学院のパイプオルガン

初等部のパイプオルガン

小 澤 淳 一

初等部では、毎朝礼拝を守っています。礼拝堂には、正面に「連立の十字架」とヘルモン山をイメージした蝋燭台が置かれ、窓に目を移すと、イエス・キリストの生涯を描いた16枚のステンドグラスがはめられています。このステンドグラスは歴代の卒業生からの感謝の献金によって捧げられたものです。このように「礼拝をする」環境が整えられてきましたが、より一層の礼拝充実のために、今から10年前、学院創立120周年記念事業の一環として、パイプオルガンの設置の検討に入りました。

初等部礼拝堂建設当初からパイプオルガンの設置の計画がされていましたが設置されていませんでした。そこで、初等部内にパイプオルガン設置委員会がもうけられました。多くのオルガン製作所に礼拝堂の見取り図とコンセプト（演奏会目的ではなく、礼拝に奉仕するオルガン）を送り設計をお願いしました。多くの製作所からお返事を頂きましたが、ルドルフ・フォン・ベッケラート・オルガン製作所（ドイツ・ハンブルグ）のパイプオルガンを設置することにしました。6トンもあるパイプオルガンを組み立てるため、礼拝堂が使えなくなる期間が4ヶ月も続きました。その間の礼拝はプレールーム（体育館）やテレビ放送を用いて行いました。礼拝堂で礼拝できることがいかに感謝なことが実感した4ヶ月でした。

1994年2月にオルガンの鍵を受け取り、3月に奉獻式をしました。それ以降、礼拝堂でパイプオルガンの伴奏で賛美を捧げられるようになりました。パイプオルガンは礼拝堂正面に設置され、どこの座席からもその姿が見えるようになっています。パイプオルガンを礼拝で用いるようになり、子どもたちの

賛美の歌声がより大きくなりました。先日の聖書週間特別礼拝や隣人をおぼえる礼拝では講師の先生をお招きし礼拝を守りましたが、パイプオルガン伴奏の子ども達の賛美が力強く生き生きしているとお褒めの言葉を頂きました。このパイプオルガンは毎日の礼拝は勿論のこと、入学式や卒業式でも子どもたちの賛美の歌声を引き出しています。入学式では、パイプオルガンの堂々たる姿を見て、新入生の保護者の方々は驚いておられるようです。卒業式では、パイプオルガンの音に合わせて卒業生が礼拝堂から退堂します。また、毎年クリスマス・ツリー点火祭後、パイプオルガンのアドヴェントコンサートを開き、主の降誕を待ち望む大切な時を守っています。聖歌隊の礼拝奉仕でも心に響く音をオルガンは奏でています。

パイプオルガンの音に合わせ、賛美を捧げる礼拝は初等部の柱です。心を神様に向ける礼拝では、大人も子どもも神様の前では「礼拝者」であり、小さな命です。その小さな命が心から賛美することにより大きな輝きを放ちます。そして、今日も明日も初等部の礼拝堂の多くの小さな命がパイプオルガンの音と共に輝いています。

(初等部 宗教主任)



特 集：青山学院のパイプオルガン

短大礼拝堂のオルガン

湯 口 依 子

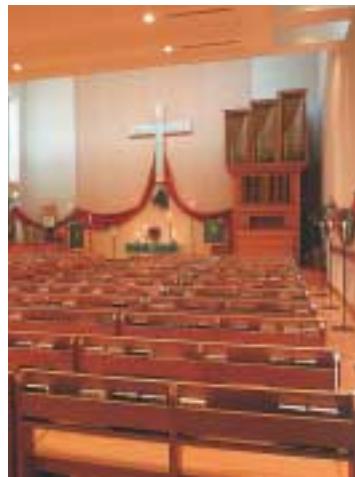
短大礼拝堂は北校舎一階にあり、約150名程が収容できる小ぢんまりとした落ち着いた雰囲気を持つ。礼拝堂の前面中央には短大で教えていらした掛井五郎先生製作の大きな十字架が掛けられており、この礼拝堂の中心を成している。ここに1984年3月1日ドイツ、ボッシュ社製のパイプオルガンが設置された。おそらく青山学院の青山キャンパスで、本部に設置されているオルガンに次いで2台目のパイプオルガンであろう。このパイプオルガンは2段の手鍵盤とペダル、それに9つのストップを持つ。パイプオルガンの規模としては小さいが、礼拝堂の大きさに合った楽器といえる。パイプオルガンは一台、一台設置される場所に合わせて製作される楽器であるため、楽器の大きさ、形、音色がその楽器によって全て異なる。短大の小さな礼拝堂が造られた後に、その空間に合った小さなパイプオルガンが設置されたのである。このオルガンは礼拝堂の前面にある聖壇の右側に設置されている。

短大では週に3回、月、水、金曜の昼休みに礼拝がおこなわれ、まずはパイプオルガンの第一の役割がこの時間に果たされている。礼拝堂に満員の人々が入っても、その賛美の歌を支えるに充分な力をこのオルガンは持っている。また、授業にもこのオルガンは使われている。児童教育学科では2年生と専攻科の学生が「器楽」という授業でオルガンを選択することで履修できる。パイプオルガンは日本ではまだ設置されている場所も限られ、簡単に聞くことも、まして実際に弾いてみる機会もなかなか得られない楽器である。パイプオルガンを礼拝堂に礼拝のために設置し、更に学生にも学ぶ機会を開いたこともこの楽器にとって大きな役割となっている。オルガンを履修した学生は授業の一環としての小さな発表会でオルガンを演奏する機会を持つ。卒業てしまえばパイプオルガンに接することもほとんどないためこれは貴重な体験となっている。

短大では年間行事の1つとして「チャペルコンサート」も実施されている。毎年、さまざまな楽器によるコンサートがおこなわれているが、パイプオルガンのコンサートも今までに何回も行われてきた。このオルガンはブルストヴェルク（第2鍵盤）がスウェルボックスに入っているため、小規模の楽器ではあるが演奏の可能性が広がっている。オルガンだけでなく、オルガンとの他の楽器と組み合わせたコンサートも行われてきた。私が演奏させていただいたコンサートで忘れられないものは、兼任講師としていらした作曲家の松本直子先生が作曲・出版されたオルガン曲をこのオルガンで披露演奏させていただいたことである。

今後も短大礼拝堂のオルガンが充分に生かされ、美しく響くことを願っている。

Manual I	Hauptwerk (C-g ³)
Principal	4'
Rohlföte	8'
Waldflöte	2'
Mixtur	1 1/3' 3f
Manual II	Brustwerk (C-g ³)
Gedackt	8'
Blockflöte	4'
Octave	2'
Sesquialtera	2f
Tremulant	
Pedal	(C-f')
Subbass	16'
カプラー	
	II - I, I - P, II - P



(兼任講師)

磨きのかかったオルガン、マルクーセン

堀井 美和子

相模原キャンパスウェスレー・チャペルのパイプオルガンは、厚木キャンパスウェスレー・チャペルにあったものを移設したものです。移設に際しましては、解体、組み立て、整音までに約3ヶ月が費されました。このオルガンは、デンマークを代表するオルガン製作会社のひとつとして知られているマルクーセン社製のもので、1983年に厚木キャンパスに設置された時、同社のものは日本及び東洋における第一号だったことと、価格が1億円だったということもあってか、新聞各紙でも取り上げられる程、ある意味ではセンセーショナルな出来事でした。パイプオルガンというものはオーダーメイドですから、とにかく時間がかかります。厚木キャンパス開学に際し、デンマークに発注してから4年、製作に2年が費され、船便で到着。組み立て技師4名、調律師2名が来日し、68日間かけて組み立て及び整音をして完成したという次第でした。

このオルガンには3段鍵盤と足鍵盤とがあり、レジスターの数は40個、パイプの数は2817本です。中央にブルストヴェルク、ハウプトヴェルク、オーヴァーヴェルクの順にパイプ群が積み重ねられ、その両側に足鍵盤のパイプが並べられています。全体的に柔らかい音色が特徴で、過度に鋭い音はみられません。マルクーセン社社長自身の言葉を借りれば、「マルクーセン社では、数十年前から古典的な北ヨーロッパタイプのオルガンに範をとって製作を続けています。その特徴は、幅広い音響スペクトル、堅牢なウインドチェストと、単純構造で正確に作動するメカニックです。これらは今なお伝統的な手作りを基本としてつくられています。オルガンの耐久性を重視するとともに、どのようなオルガン曲も演奏でき

るよう、パイプの整音は最高の技術をもって行いました」とのことと、まさにその言葉通り、21年目にさしかかったマルクーセンオルガンはますます磨きがかかり、今日もウェスレー・チャペルでその美しい音色が奏でられています。

オルガンは入れ物（建物）によって響きが左右される楽器ですが、今回相模原に移設されたことにより、建物との相性もよく、響きがより柔らかくなつたように感じられます。厚木よりチャペルが狭くなった分、少ないトップでも充分豊かな響きが得られます。毎日行われる礼拝では、学生達がオルガンの前奏・後奏にじつと耳を傾ける姿が、厚木の時より圧倒的に多く見られるようになりました。これはやはりオルガンの音色がより魅力的になったからではないでしょうか。礼拝におけるオルガンは、単なるバックミュージックでもなければ、伴奏楽器に留まるものではありません。聖なる神を指し示し、主なる神を讃美する楽器としての役割を担っています。その役割を、このマルクーセンオルガンは今、理想的に実現していると言えるのではないでしょうか。

（大学オルガニスト）



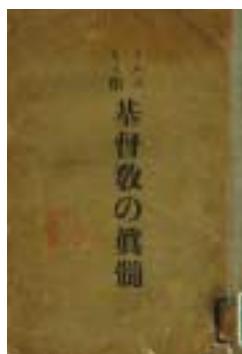
青山学院資料センター所蔵のキリスト教貴重文献・史料 その5

—文豪トルストイの信仰告白・左近義弼教授の揮毫・その他明治初期出版物—

氣賀健生

青山学院資料センター所蔵の文献・史料紹介の第1～3回は稀観本聖書、第4回は明治初期の讃美歌をとりあげました。今回は明治時代の日本におけるキリスト教黎明期に数多く出版された、今日では稀観本とも云うべき文献の幾つかを紹介しましょう。

まず、かの文豪トルストイの信仰告白ともいるべき著書を2冊。ひとつは加藤直士訳「基督教の真髓」警醒社、明治36年12月初版、38年5月第3版、124ページ、ですが、トルストイは1910年に肺炎で田舎の小駅で亡くなっていますから、明治36（1903）年といえば、まだ彼の存命中の翻訳です。序文の冒頭に「此の福音略解は、我が露国に於て出版し能はざる長編なる原稿中の一小部分にして、その梗概は四福音書によりて吾人に伝はりたる基督の教に対する我が独創的研究の結果なり」と述べられています。ロマノフ王朝末期のロシア帝国の特権貴族階級の生態とモラルを批判し、私有財産制を否定した彼の著作は、晩年にはロシアに於て出版不可能となっていたのでしょうか。文中「予は死の待つあるを知る。然れども予は天父の生命に我信を置く、故に毫も死を恐るゝことなし。唯だ生命の父なる眞の神を信ぜよ」（106頁）というように、キリストの言葉を随所にひいていますが、人間の道徳的回生のすがたを描いた『復活』（1899）を想像させます。



この本の裏表紙には“杜翁崇拝者老子”と書かれてあり、「日本メソヂスト城西教会」の角印が見られ、青山学院図書館には昭和6年1月21日購入という日付があります。次は小田頼造訳「簡易聖書」明治43年1月1日、金尾文淵堂発行、434頁（65銭）です。明治43年といえば、トルストイ召天の年

（1910年晚秋）です。発行の日付を見ると彼の死の約1年前に出版されています。『戦争と平和』（1869）に於て既に示されていた彼の農民的無政府主義、キリスト教的人間愛と悪への無抵抗の教義は、この晩年には確固たるものになっていたのでしょう。序文には「此の原書は寫本のままに存して、露国に於て発行すること能はざる所の、更に大なる書より抜萃されしもの也」とあります。1862年には既に政府の疑惑を招いて憲兵による家宅捜索をうけていますから、彼の著作はロシアでは出版不可能となり、1896年、イギリスの英國同胞主義協会及びウォルター・スコット社からGospel in Brief by Leo Tolstoyとして出版されたもの、その日本語訳がこの本です。青山学院へは「昭和文庫」の一冊として昭和5年6月11日に購入されています。44頁に及ぶ長文の序文の最後は、次のように結ばれています。「若し彼等にして彼等の詐偽を排絶せざらんか…彼等にとりて残る一事は…余を迫害すること也。今我が書を完成するに当りて、余は歓喜と余自身の人間的脆弱に対する恐怖とを以て此迫害に対して用意せり」と。『戦争と平和』『アンナ・カレーニナ』『クロイツエル・ソナタ』などで知られる文豪トルストイの、信仰者として的一面を余すところなく表わしている珍しい本だと思います。



次に左近義弼教授の自筆草稿と額装の揮毫。左近義弼教授については、いずれ小伝を「青山学報」に寄稿する予定であります。パウロ書簡を候文で翻訳したり、ローマ字の普及に力を注ぎ、特にその玄米食の勧めは有名で、青山学院130年の歴史の中でも、奇行の多い人物であったということです。旧神

学部に於て1907年から30年間旧約学を教え、ヘブライ語の権威として著名でありました。当資料室には「旧約聖書總論（講義案）」、「1908年度、及び「旧約聖書神学（講義案）」上・下、1908～1909年度の自筆原稿が保存されています。いずれも大学ノート2冊にビッシリと書かれた講義ノートであり、これは稀重品中の稀重品でしょう。またヘブライ語で書かれた「イムマヌエル」の揮毫が数点あります、中でも象形文字で書かれたものには「皇紀1.795.075年、神武復興皇紀2599年、昭和14年9月3日」と日付が書かれています。この「1.795.075年」については、今のところ、誰に聞いてもわかりません。まことに不思議な日付ですが、心当りの方があらうれば、お教え頂きたいと思っております。

さて、明治期はキリスト教の黎明期でしたから、聖書の初步的解説書、一覧表、用語解説等が数多く出版され、当資料室も多数所蔵していますが、そのうち、幾つかを紹介しましょう。

先ず、コンコルダンス（用語索引）類から。

田村直臣編「対照聖書辞典」。明治23年版、732頁。序文に“英語ではコンコルダンスという”とあって、いかにもこの時期のもの、という感じです。

倫敦聖教書類会社編及び出版「聖書の章引」51頁。

これは簡易コンコルダンスとでもいうべきもの。

「聖書語類」。表紙にはConcordance of the New Testamentとあり、真鍋定造編纂日本語版。米国聖教書類会社、明治23年、福音社版。672頁。

「聖句便覧」（全）。基督教書類会社、明治41年版。650頁（75銭）これにはY.Abe1920とサインがあり、Y.Abeは勿論阿部義宗元院長でしょう。



「聖書辞典」。米国博士平文先生、日本牧師山本秀煌編纂。基督教書類会社。明治25年、於横浜。

「旧新約両全書、聖書類聚」。上田貞次郎編纂。奥野昌綱序、牧師辻密太郎補訂、牧師宮川経輝校閱。明治22年。314頁（60銭）これはまさに用語集です。

「福音排偶便覧」。英國宣教師ハツ

チンソン著。倫敦聖教書類会社刊行、1881年刊（522頁）。神学生、教員、伝道者を対象としている、とあります。

「新約聖書路加伝引合（ひきあわせ）」。これはルカ伝の各記述が聖書の他の章にどのように出ているのかについて述べたものです。22頁（20銭）。「大日本美会神学校横浜」の印、Tokyo Ei-Wa-Gakkoの印があり、青山学院の前身時代からの蔵書であることがわかります。

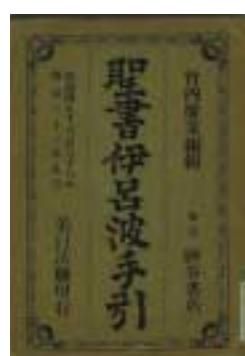
「耶蘇之大説教」。米国監督教会教師A.D.グリング著。同志社篠田昌武訳及び緒言。小崎弘道序。基督教書類会社、明治26年刊。「これはコンコルダンスではないかもっと役に立つ」とうたっています。キリストの言葉を聖書中より編纂したもので、解説は一切ありません。

「聖書釈義学」。東京英和学校旧約聖書神学教授チー・ピー・ノルトン著。学生小畠久五郎、卒業生松浦松胤訳。メソヂスト出版舎（明治26年）版。これは当時の東京英和学校の神学生のために書かれたものです。

「聖書の勢力」。聖書之友事務所、明治22年版（55銭）55頁。序文は小崎弘道で、次の人々の論文集となっています。伊勢時雄、カクラン、星野光多、平岩恒保、スヰフト、古荘三郎、コウレル。聖書之友月報抜刷第一集となっていますが、各人の名にいちいち「君」がついているところが、時代を示していて面白いと思います。

「赤い紐」。S.R.Risster著。基督教書類会社、明治28年、182頁（25銭）。Bible Story made plain to all readersと表紙にあって、「英國海軍のための索はみな赤い紐の糸が真中に貫き通れる如く…イエスを信ぜば則ち足れり」と最後に結んであります。

「福音解通」前篇117頁、後篇82頁。北原文治纂述兼発行ですが、内容は説教です。教文館、明治33年。最後は“我



が日本の宗教”とあり興味深いものです。

この他、「聖書伊呂波手引」東京谷中書店、127頁とか、「童子聖書問答」とか面白いものが沢山ありますが、紙数の都合上、今回はこれまでにしておきましょう。

（大学名誉教授）

シリーズ：キリスト教図書紹介

『みんなのcatechism』

—アメリカ合衆国長老教会著／トマス・J・ヘイスティングス

神代真砂実、田中かおる共訳—（一麦出版社）

田 中 かおる

「catechism」という言葉をご存じでしょうか。日本語に置き換えると「教理問答書」となります。ちょっと堅苦しい、と思われるかもしれませんね。今風にいふと、キリスト教とは何か、についてのQ&A書、ということになります。

アメリカ合衆国長老教会=PC(USA)は、1998年の年次総会で新しいcatechismを承認致しました。それは、First Catechism「初めてのcatechism」(対象:10歳位から)と、Study Catechism「学習用catechism」(対象:青年以上)の2段階のcatechismです。そして、その邦訳版を1冊にまとめたものが『みんなのcatechism』です。

この新しいcatechismの特徴の一つは、覚え込ませるためのcatechismではなく、考えるためのcatechismといえるかと思います。キリスト教信仰の道筋を、聖書に即して問答の形で整理し、加えて現代の世の中からの問い合わせ(疑問)に答える、そういう形式をとりながら、キリスト教とは何か、を説明しています。読者は、いろいろな角度からの問い合わせに対する答えを読むうちに、キリスト教とは何か?について、考えを巡らせることになります。

もうひとつの特徴は、子供達から大人まで幅広い年齢層に対応できるようにと段階を踏んでいることです。前述したように、「初めてのcatechism」は10歳位の子供向きに基本的聖書救済物語をまとめ、設問にそつた視覚教材(カード式イラスト集)も邦訳版とセットで発行されています。子供達のみならず、求道者や保護者にも十分活用できます。

一方、「学習用catechism」は成人用で、使徒信条・主の祈り・十戒に焦点をあてて、改革派の基本的教理を説明しながら、信徒の生活や他の活動領域にお

いても神学的な根拠を与えるよう願つて、作成されております。その視点は、設問によく表れています。たとえば、「問い合わせ27:あなたが『創造者なる神』を告白することは、近代科学の発見と矛盾しますか」「問い合わせ50:キリスト教は唯一の眞の宗教ですか」等の問を設定し、聖書に基づいて丁寧に答えてあります(答えの中味を知りたい方は、ぜひ手にとってご覧下さい)。私達が現代社会においてキリスト者として生きていく上で避けては通れない問い合わせとそれに対する答えに思いを巡らせることは、聖書の使信をより豊かに受け止める良い機会となることでしょう。

キリスト教は、その始まりから「信仰教育(育成)」という営みを教会が担ってきました。聖書では、神ご自身が、ご自分の民を教育するお方であることを、繰り返し語っています。catechismは、本来、そうした道筋の中で整えられてきたものです。そういう教会の本来の役割を今の日本の教会が再認識し、教会の足腰が堅固になる事、またキリスト教教育の現場にも良い示唆となる事を願つて、東京神学大学のT.J.ヘイスティングス教授、神代真砂実助教授が、このcatechism邦訳に力を注がれました。ぜひ、ご覧下さい。

(中等部非常勤講師)



シリーズ：私の教会

日本キリスト教団 本郷中央教会

石田 彩子

東京都文京区本郷3丁目に、私が、幼稚園に入る前から通っている本郷中央教会があります。

この教会は、1989(明治23)年に、カナダ・メソジスト教会のC.S.イビー宣教師によって設立された歴史のある教会です。

以来百余年にわたり、この地域の人々にイエス・キリストの福音を宣べ伝えて今日に至っています。

当初は、「中央会堂(英語名はCentral Tabernacle)」と呼ばれましたが、その後「日本キリスト教団本郷中央教会」となりました。

創立当時の教会堂は、関東大震災で焼失し現在の会堂は、1929(昭和4)年に再建されたものです。

この教会の正面入り口の右側壁面に、旧教会名と共に「真理は汝等に自由を得さすべし」という言葉が刻まれた銅板が掲げられています。これは、新約聖書の「ヨハネによる福音書」からとられた言葉で、本郷中央教会の信仰を端的に表わしています。

礼拝は、幼稚科と小等科の礼拝、中高科の礼拝と、大人と、高年齢者の礼拝と、あらゆる年齢層がいる教会です。人数は、全てを合計して、89人です。

小等科の礼拝が終わると、先生達も、子供達と一緒にになって遊びます。ここが、本郷中央教会の特徴です。遊ぶのは、教会の中です。この教会附属の幼稚園があり、「中央会堂幼稚園」として、長く地域の人々に親しまれてきました。そのため、平日は幼稚園、休日は教会になっています。牧師は亀岡顕先生で、時々小等科で、イエス様のお話や、命についてお話をしてくださいます。優しく、幼稚科の子供達にも分かりやすく、イエス様のお話をしてくださいます。

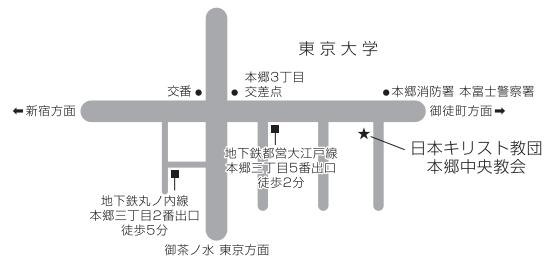
季節ごとに行われるイースター礼拝や、秋のバザー、クリスマスページェントなどは、地域の人々も多く出席します。

イースター礼拝は、早天祈祷会があり、毎年多くの人が参加します。祈祷会が終わると、イースターエッグが皆に配られ、賛美してからいただきます。

秋のバザーは、子供達が、喫茶店を営んだり、大人の人のフリーマーケットなど、教会の人達・先生・子供達が、頑張って各自任された仕事をしています。

クリスマスページェントは、マリア・ヨセフ・ガブリエル・天使・博士・ナレーター・宿屋の主人・星を幼稚科・小等科で分担をし、中高科は、ハンドベルの演奏をします。一人一人が頑張っているので、素敵な舞台になります。また、最後に見に来て下さった方々と歌う「きよしこの夜」は、素晴らしいものです。皆さんも一回、本郷中央教会にいらしてみて下さい。きっと、この教会の素晴しさが分かるでしょう。

(初等部5年)



日本キリスト教団 本郷中央教会

〒113-0033 東京都文京区本郷3丁目37-9 TEL 03-3811-3500 FAX 03-5689-5699

宗教センターだより

幼稚園より

年長組軽井沢キャンプに始まり、クリスマス礼拝で終わつた2学期。1日1日の生活を積み重ねるとともに、運動会や遠足など、様々な行事がありました。

子どもたちによる、子どもフェスタでの手作りクリッキー販売、幼稚園で拾つた銀杏の実・木から取つて磨いた柿の実の販売での収益金をCCWA(基督教児童福祉会・国際精神里親運動部)に送つたことや、クリスマス献金を通して、「捧げる」という経験もしました。

3学期です。子どもたちは寒さにも負けずに、1・2学期に培つてきた力を十分に使って遊びこんでいくことでしょう。充実したときを過ごし、進学・進級へと向かっていきたいものです。

3学期の主な予定

1月 9日(金)	始業礼拝
19日(月)	保護者会
21日(水)	誕生日会
30日(金)	おもちつき
2月10日(火)	防災訓練
13日(金)	会食
18日(水)	誕生日会
23日(月)	合同保護者会
3月 1日(月)	保護者会
3日(水)	誕生日会
5日(金)	会食
11日(木)	終業礼拝
12日(金)	卒園式

(教諭 久 洋子)

初等部より

初等部の入学試験も終わり、その期間を利用して児童の有志が、止揚学園などへの短期留学へ出かけました。

○10月22日(木) 聖書週間特別礼拝

今年は、日本キリスト教団中目黒教会牧師西上信義先生に「たねのたとえ」のお話についてお話をいただきました。

○10月28(火) となり人を覚える礼拝

CCWAの部長の小林毅さんをお招きして、現在

CCWAが支援をしているフィリピン・ネパールの現状と現地での支援の内容についてお話を伺いました。

○11月14日(金) 創立記念礼拝

棚村恵子先生に、スクーンメーカー先生のお話を伺いました。

○11月18日(火) 感謝祭礼拝

神様の恵みとしての収穫物を礼拝堂に持ち寄り感謝をする礼拝です。お話は、宗教主任。

○12月5日(金) 保護者のためのクリスマス礼拝

新1年生の保護者の方々もお迎えしてクリスマスの礼拝を守ります。説教者は、日本キリスト教団吉祥寺教会牧師、吉岡光人先生。

○12月20日(金) クリスマス讃美礼拝

今年で、51回を迎えるペジエントで、6年間に一度だけ参加できるもので、それぞれが心の準備を行います。説教者は、大学宗教主任嶋田順好先生。

(宗教主任 小澤淳一)

中等部より

○創立記念礼拝

中等部での創立記念礼拝は、11月7日(金)。この日は、例年の通り、秋の中等部祭の準備の日に当たります。129年の伝統を振り返り、また同時に、129年目の今を生きる中等部生活を厳粛な思いを持って見つめます。講師は、大学宗教主任、伊藤悟先生。出エジプト記3章から「はき物をぬぎなさい」と題して説教をしていただき、中等部では勿論のこと、青山学院で最も大切な「礼拝」を守り続けることの恵みを示されました。

○中等部祭

11月8日(土、全日)9日(日、半日)が一般公開で、10日が非公開の後夜祭のスケジュールで行われました。その中で宗教委員会のバザーが例年開かれますが、3年前からCCWA(基督教児童福祉会・国際精神里親運動部)、JOCS(日本キリスト教海外医療協力会)、ACEF(アジア・キリスト教教育基金)の三団体が扱っている絵葉書や各国の民芸品などを売つて、これらの団体を支援し、また、その活動を紹介しています。

○早朝祈祷会

毎週水曜日の7時50分から8時5分まで、学校の特別な行事がないかぎり休まず続けられています。今年は参加者が少なめですが、学院のために、中等部のために祈っています。

○卒業礼拝

中等部三年生だけが出席する、卒業生のための礼拝です。04年3月12日(金) 大学宗教主任の鈴木有郷先生をお招きしてメッセージを頂きます。

(宗教主任 石丸泰樹)

高等部より

○伝道週間礼拝

10月27日～31日の伝道週間には、講師に国分寺バプテスト教会牧師の米内宏明氏をお招きしました。米内先生は現在若手伝道者として各地の伝道集会で説教奉仕をされている方です。今回も高校生たちに3回にわたり素晴らしいメッセージを語って下さいました。「愛にふれられて」と言う総主題の下、3回に分けて神様の愛を力強く語って下さいました。

「Touch Me」(ルカ福音書18章35～43)

「Save Me」(ルカ福音書15章11～32)

「Love Me」(ルカ福音書19章1～10)

各礼拝の中で、国分寺バプテスト教会音楽ミニストリー所属の関加奈子さんと望月直美さんが素晴らしい賛美をしてくださいました。

○クリスマス礼拝

高等部のクリスマス礼拝は12月18日(金) PS講堂で行われます。第1部の礼拝では、経堂緑岡教会の松本敏之牧師が説教をしてくださいます。第2部の祝会はゴスペルミニストリーのラニー・ラッカーフィグループをお招きしてゴスペルを中心とした集会を持ちます。

○クリスマス合同コンサート

聖歌隊、オルガン部、ハンドベル部による合同コンサートは12月20日(土)にガウチャー記念礼拝堂で行われます。今年もメサイアが上演されます。

(宗教主任 坂上三男)

短大より

○第9回ランチタイムコンサート

10月14日(火)に、ピアニストの今村友子氏をお迎えし、興望館沓掛学荘(児童養護施設)支援のためにチャリティーコンサートを開きました。ショパン、ドビュッシーなどクラシック作品からジャズまで幅広い演奏で、さらに即興演奏も加わり、お昼休みのひと時、美しいハーモニーを楽しみました。

○第39回チャペル・コンサート

青山祭期間に短大聖歌隊、短大ハンドベル・クワイア、短大ゴスペル・グループ、大学第一部聖歌隊、大学第二部聖歌隊、大学ハンドベル・クワイア、オラトリオ・ソサエティ合唱団の7団体合同コンサートを短大礼拝堂で開催しました。

○青山祭への参加

バングラデシュのベンガル・ティーに学生の手作りケーキを添えて、喫茶店を開き大好評でした。

売上は全てアジアキリスト教教育基金に献金します。

○創立記念礼拝

11月12日(水)に学院宗教部長の東方敬信先生をお迎えし「強く生きる力」と題してお話をいただきました。

○短大クリスマス礼拝

日 時 12月10日(水) 13時～14時30分

場 所 青学講堂

大学宗教主任・文学部教授 鈴木有郷

「光は暗闇の中で輝いている」

○クリスマス・チャペル・コンサート

日 時 12月19日(金) 18:00開演

場 所 短大礼拝堂

出 演 短大聖歌隊、短大ハンドベル・クワイア、ゴスペルグループ

○天城冬の集い

期 間 1月31日(土)～2月2日(月)

場 所 日本バプテスト連盟 天城山荘

テ マ 「戦争と平安そして恋愛：

日本の古典文学に学ぶ」

特別講師 国文学科教授 鹿倉秀典

○卒業礼拝

3月22日(月) 13時30分

場 所 青山学院講堂

説 教 短大宗教主任 伊藤勝啓

献金先 女性の家HELP(緊急避難センター)、

信州共働学舎(障害者生活施設)、

興望館沓掛学荘(児童養護施設)、

日本聾話学校、

アジア学院、

ACEF(アジアキリスト教教育基金)

○短大クリスマス礼拝

日 時 12月17日(水) 16時30分～18時

場 所 短大音楽室

(宗教活動センター 向野理恵子)

大学より

○相模原キャンパス開学記念行事

◇沢 知恵コンサート

10月24日(金) 入場者 220名

◇速水 優(前日銀総裁)講演会

10月30日(木) 入場者 146名

◇オックスフォード大学ニューカレッジ聖歌隊クリスマスコンサート

12月17日(水) 18時15分

ウェスレー・チャペル

○ランチタイムコンサート

◇相模原キャンパス

10月27日(月) 堀井美和子(大学オルガニスト)

12月4日(木) 作井清雅子(大学オルガニスト)

◇青山キャンパス

11月19日(水) 堀井美和子(大学オルガニスト)

12月9日(火) 羽柴 真樹(大学オルガニスト)

○クリスマスコンサート

◇聖歌隊

12月6日(土) ガウチャー記念礼拝堂

◇ハンドベル・クワイア

12月13日(土) ガウチャー記念礼拝堂

○クリスマス礼拝

◇青山キャンパス

12月16日(火) 18時 ガウチャー記念礼拝堂

◇相模原キャンパス

12月19日(金) 17時50分 ウェスレー・チャペル
(宗教センター事務室 田中健夫)

本部より

○ジョン・ウェスレー生誕300年記念行事

◇速水 優(前日銀総裁)講演会

10月21日(火) 入場者 240名

◇オックスフォード大学ニューカレッジ聖歌隊クリスマスコンサート

12月18日(木) 18時ガウチャー記念礼拝堂

編集後記

今号は「青山学院大学オルガニスト養成講座」の開講にあわせ、学院各部のパイプオルガンを特集いたしました。それぞれのチャペルに素晴らしいオルガンが与えられ、日々豊かに用いられている様子が紙面から伝われば幸いです。ただ、肝心の音色をお伝えできないのはまことに残念です。どうかこれを機会に、各部の礼拝や催しに出席され、それぞれが奏でる賛美の音色に耳を傾けてくださいますよう。

(女子短期大学 輪島 達郎)

○学院関係者墓地墓前礼拝

11月7日(金) 小平靈園

説教 東方 敬信(学院宗教部長)

○創立記念礼拝

11月14日(金) ガウチャー記念礼拝堂

説教 嶋田 順好(大学宗教主任)

○クリスマス・ツリー点火祭

11月28日(金)

◇青山キャンパス 17時

◇相模原キャンパス 16時40分

○Art クリスマス Aoyama

11月26日(水)~12月16日(火)

会場:女子短大ギャラリー他、各部

○教職員・学生のための祈りの集い

12月5日(金) 1月9日(金)

2月6日(金) 3月5日(金)

時間:17時10分

会場:宗教センター 集会室

(宗教センター事務室 田中健夫)

ジョン・ウェスレーをめぐって(その1)

「もし……だったら」

廣瀬 久允

夫のサミュエルが精力絶倫だったからか、妻のスザンナが多産系だったからか、(多分その両方の理由から)、この二人の間には、21年間に実に19人の子供が与えられた。エブワースの牧師館には、いつも子供の声が響いていたことになる。少子化の進んでいる今日からは想像もつかない。ただし当時は衛生状態も悪く、10人は夭折しており、ジョン・ベンジャミンという名前も、亡き兄たちのものを踏襲して3回目とのことである。彼は第15子、弟のチャールズは18番目である。このジョンとチャールズが生まれていなかつたら、メソジスト教会も、したがつて青山学院も存在しないのである。歴史に「もし」とはいえない。

(大学宗教主任・法学部教授)

Wesley Hall News 第78号

発行 青山学院宗教センター 宗教部長 東方 敬信
東京都渋谷区渋谷4-4-25

TEL.03-3409-6537(ダイヤルイン)

URL:<http://www.cc.aoyama.ac.jp/user/agcac/>

E-mail:agcac@cc.aoyama.ac.jp

編集 ウェスレー・ホール・ニュース編集委員会

印刷 万全社